

大蔵委員会 議録 第九十八号

昭和二十七年六月二十六日(木曜日)

午前十一時四十分開議

出席委員

委員長 佐藤 重彦君  
理事 奥村文十郎君 理事 小山 長規君  
理事 内藤 友明君 理事 松尾トシ子君  
淺香 忠雄君 大上 司君  
島村 一郎君 高岡 松吉君  
苦米地英俊君 夏堀源三郎君  
三宅 則義君 宮幡 靖君  
宮原幸三郎君 中野 四郎君  
出席國務大臣

出席政府委員

農林大臣 廣川 弘禪君  
大蔵政務次官 西村 直己君  
大蔵事務官(主計局法規課長) 佐藤 一郎君  
農林事務官(畜産局長) 長谷川 清君  
農林事務官(畜産局長) 東畑 四郎君  
食糧庁長官 塩見友之助君  
水産庁長官

委員外の出席者

議員 平野 三郎君  
大蔵事務官(理財局管理課長) 横山 正臣君  
農林事務官(畜産局長) 豊永 光君  
農林事務官(畜産局長) 椎木 文也君  
専門員 黒田 久太君  
専門員

本日の会議に付した事件

高金利等の取締に関する法律案(内閣提出第一八四号)

接収貴金屬等の数量等の報告に関する法律案(内閣提出第二三三一号)

簡易生命保険及郵便年金特別会計法の一部を改正する法律案(内閣提出

第一類第六号

大蔵委員会議録第九十八号 昭和二十七年六月二十六日

第二四一号)

資金運用部資金法の一部を改正する法律案(内閣提出第二四二号)

食糧管理特別会計法の一部を改正する法律案(松浦東介君外三十三名提出、衆法第七六号)

アメリカ合衆国におけるまぐろ輸入関税に関する件

○佐藤委員長 これより会議を開きます。

高金利等の取締に関する法律案、接収貴金屬等の数量等の報告に関する法律案、簡易生命保険及郵便年金特別会計法の一部を改正する法律案、資金運用部資金法の一部を改正する法律案、及び食糧管理特別会計法の一部を改正する法律案の五法案を一括議題といたし、質疑を続行いたします。質疑は通告順によつて許可いたします。夏堀源三郎君。

○夏堀委員 食糧管理特別会計法の一部を改正する法律案について、二、三質問したいと思ひます。

この問題については、昨日政府委員及び立案者の方々からお話を承り、趣旨としてはたいへんかつこうであり、御賛成申し上げたいと思はれております。この問題を取上げるにあつて、飼料の問題は非常に大きな問題でありますので、いろいろこれに関連した事項について私研究いたしましたのでありますが、それを各委員に配付いたしました。これは飼料の購入九十一億九千万円という相当な額に達するのであります。数量も二十五万トンという数

量であります。この膨大な金額と数量これに對して、米に換算してどれだけの輸入米の調整ができるか、こう私質問いたしましたのでありますが、何か一千万石とかいふお話もありましたが、これはあまり膨大な数字であつて、ちよつと信ずるわけに行きませんので、資料を提出することをお願いしてあるのであります。そこで内地の価格と比較して二割高である。従つて二十億円の何か財政面からの補助的な処置がなければいかんというようなことで、財政面から考えたその措置はどうかというようなことを、小山委員から御質問になつたようであります。これは政府といたして御折衝になるのであります。食糧輸入に對しての補助金等の面もありますので、どちらの方へ補助的な処置を講ずるか、むしろ利益のある方に出す方がいいのではな

いかと考へますので、その趣旨には賛成であります。そこで私はこの問題に關連して、きようは農林大臣がお見えになれば、この問題についての意見を伺ひたいと思はれておりましたが、ちよつと水産庁長官がお見えになつておられますので、この問題との関連についての食糧供給対策——これはフィッシュミールの工船の計画を一応私立案としてみたのでありますが、これは国内の生産で足りるのであつて、特に日米加漁業協定の線に大きく浮び上りまして、あの海区において無尽蔵な、いわゆるたらとか、あるいはかれいとか、安い魚が三十分で三千五百貫もと

れるというような実績があるのであります。これはこれまでフィッシュミールは日本が希望し、これを産出したいと思ひましたが、沿岸ではなかなか魚もそう漁がありません。幸いに日米加漁業協定の線の上で、こつちの膨大な世界一の漁場を開拓する意味において、このフィッシュミールの工船ということは、これはあるいは政府でもお考へになつておるかもしれません。これによつて完全に食糧供給態勢をつくることできると、私はこつち考へておられます。刷物にごくおそまつな数字も記載しておりますが、これを米に換算して五百万石の増産ができるのではないかと、私はこつち考へておるのであります。この計画は、ヒトラーが、第一次戦争にドイツが破れたのは、食糧問題の解決ができなかつたからだ、この食糧問題の解決をどうするか、こつちいうことから始まつて、フィッシュミールを全世界から輸入計画を立てて、ちよつと日本からも六万トンばかり行つたように私は記憶しておりますが、それによつて食糧計画が確立した歴史的問題もありません。日本は今まで沿岸にはその魚族が不足である關係上、先ほど申し上げたように、日米加漁業協定の線に沿つてこの計画を確立する、こつちならありますれば、昨日の御説明のあれと並行して、おそらく一千万石は容易に食糧の輸入の面において調整をすることができると考へておられるのであります。こ

で水産庁長官にお伺ひしますが、フィッシュミールの多量な生産計画が、國民の食糧供給に役立つことであつたらば——これは今後底びき漁業の整理は決定的なことであり、そつちして転業といつたところで、大した目ぼしい転業の道もないと思はれておられます。そこで失業問題等の大きな問題もありませんので、これをこつちした面に転換させて、ともに食糧の供給の面に強く押し出すという方法は、政策的に見て非常によろしいのではないかと、私はこつち考へておられます。こつちいうようなことがあるのか、お考へになつたことがあ

ると思ひます。

○意見政府委員 ただいま夏堀委員からお尋ねがありました。フィッシュミール工船の問題でございますが、私どもも戦後長い間にわたつて、こつち東北、北海道における底びき網漁業というふうなものは、これは資源をとり尽しつた状態にあると大体考へておられます。特にあの地帯においては、戦前において主として百キロ線を引いておつたというふうな底びき漁業のやり方は、戦後百キロ線以内では非常に資源が不足して来ておるので、こつちをこつち出して、五百キロ前後のところまで引出して行くという状態になつておられます。ほかの海区に比べまして、もつと操業区域を彼らの創意によつて広げて行つておられる状態にあるわけでございますから、それも数年間続け

ておられますうちに、やはり資源が漸

次枯渇しつつあるような状態のように見受けられるわけで、これらの漁業者をどういうふうな経営的に立ち行くようにして行くかということについては、十分考えてみなければならぬと思ひます。それでまずさしあたり考えられる問題としては、ただいま御質問にありましたように、北洋の底魚を対象にし、あるいはことし参りましてよりな鮭鱒漁網を対象にし、あるいはかつを、まぐろその他兼業関係でできる漁業のようなものにも、転換をさせるというふうなことを考えて行かなければならぬわけでございまして、何と申しまして北洋の底魚資源というものは、これはいわゆる無尽蔵と称せられておりました、支那海等における底びきりに比べますと、五倍以上というふうな単位当りの漁獲高を示している、こういう状態でございますが、その利用の方面が確立しないことには、なか／＼経済的に採算が立つとは言ひ得ない状態でありまして、そういうふうな意味から言ひまして、東北、北海道方面における底びきり漁業の今後の発展の方向と、生きて行く方向というふうな点を考へまして、北洋における各種の漁業は重要なことでございまして、そのうち鮭鱒はことしやりましたわけですが、これは逐次経済的な漁場を調査いたしまして、伸ばして行く必要があると思ひます。

であつて、それで業者として、自分の危険負担において最も出にくいものは、アイスシュミールでございます。冷凍等につきましては、あるいはこれは業者の危険負担において出得るような状態になるかも知れない、こう考えられるわけでございまして、そういうふうな観点から見ますと、東北の漁民の資源的に行き詰まり、経営的にも行き詰まつて来る状態を打開するため、また日本の飼料資源をそういう地帯から開発して来るというふうな点から見ると、アイスシュミール工船については何らかの形で援助をして、そうして逐次経済的に成立し得るような漁業として伸ばして行くことは、水産政策上からもぜひ考へてみたい、こう思つておりました、ここ教簡月間検討を続けておるわけでございまして、そのいろいろの援助の仕方については、まだ具体的な結論には達しておらない、こういう状態でございます。

採算的にどうかというふうな点についても、いろいろ當つておりますけれども、単位時間当りの漁獲高等についてはどの程度のもが見込めるかという点で、かなり動いて来るわけでありまして、経営的に黒が出る可能性はまず初年度はあるまい、こういうふうな考えられますが、そう大きい赤が出るかどうかについては、漁獲高等について決定されるもので、暫々に今のところ判断しにくいような状態にあるのであります。しかしながら何らかの形で、これは当初においては試験的な漁業として国の援助がなければ、業界の方においては自己の危険負担においていきなり出て行くという自信は、持つておられない漁業でございます。大体現在

の状況はそういう状態でございます。夏堀委員 この問題はまだ採算の面において非常にむずかしいだろう。私も採算の面においてはまだはつきりここに自信を持つて、こうなるということはつかめていないのであります。本法案の審議にあつて、平野さんから昨日説明の内容を承りまして、これも採算的に合わないものであります。そこで大体二割程度、二十億程度の補助的な措置がなければならぬ、こういうことを承つた次第でありまして、採算的なものであれば黙つておつても、みなもうけたい人方はやるのだ。けれどもこれは大きな国策であつて、このアイスシュミールがどの程度飼料としての効果的な面があるかと申しますれば、これは一つの動物性蛋白質の問題が今の案に見えております。いろいろなともろこしとかあるいはふすまといふものに比較して、はつきりわかりませんけれども、おそらく何十倍の動物性蛋白質を含有しておると思ひます。そこでものにたとえれば、御飯を食べるときのお吸物に對してのかつおぶしのごとく、病人に對しての注射のごときのものであり、これはすでに農事試験場あたりでもこれを証明しております。今農林大臣もお見えになりましたが、農林大臣は鶏をたくさん飼つて経験済みであると思ひますが、これを鶏に食べさせたら卵を産んで、始末にならぬ、こういうことをもつてして、いかにこれが効果的であるかといふことがはつきりわかつておりました。馬に与えらると一箇月で馬の毛色がびかびか光つて来るのであります。これを牛に与えれば一箇月たぬうちに非常に

に濃い牛乳が出て、今ちようど酪農の問題がバーバターの輸入の面で大分問題が出ておるようでありまして、こゝにいたつたようなことも国内において相当安にもなる。特に米に換算して五百万石の増産は可能であり、これがこの計画によつて生れることでは大きな国策であるけれども、採算はちよつとむずかしい。今この案に見えております飼料の購入代金は約百億に近い。それを外貨によつて払わなければならぬが、これは国内の生産であり、特にそれは漁業者の失業の問題も間もなく現われるであろう。底びきの整理によつて失業する。その対策として大きな役割を演ずるとともに、食糧政策に大きな役割を演ずるといふことになりまして、から、大きな国策であると思ひます。ちよつと総理が首班となつて今何か農業の顧問会を開いていろいろ御研究になつておるかと思ひますが、農林大臣はこの面に對しては御研究済みであらうと思ひます。土地改良等に五百億あるいは六百億、そういう大金を投資してやることは永久的なものでありますから、たいへんけつこうでありますけれども、これは一つの北洋漁業の目米加を演ずるかといふことを、今重ねて申し上げておる次第でありまして、この食糧自給態勢の面に對しては、食糧輸入に對しては補助金を政府は出さなければならぬ。昨日も申し上げました、この飼料の面に對しても補助的な処置が必要であらう。採算が合うか合わぬかまだ私はわかりませんが、この問題に對し名も若干政府がこれに對す

る補助云々ということには、まだ私は申し上げる段階に入つておりませんが、ただこれを強々推進するということによつて、国策に合致するということであつたならば、政府はこゝろの問題も取上げてよいじやないかと考へておる次第であります。ちようど大臣もお見えになつておりましたので、この問題に對しての御意見を拝聴いたしたいと存じます。

○廣川國務大臣 大蔵関係のことよりも水産関係に造詣の深いお方でありまして、私が申し上げぬでもよりよく御承知のことであると思ひます。ただいまここに食糧自給対策の一環として、工船によるアイスシュミール生産計画の内容を拝見いたしておりました、元來私は食糧をまずではかすることはきらいな方でありまして、やはりカリョリー計算で行く方がよろしいという論者の一人でございます。このアイスシュミールを食糧にすることにございましては、私たちが非常に考へておりますが、これを飼料として取上げた場合における御構想であります。これもえさつづけ等に多少の困難はあるようではあります。しかし、飼料として十分取上げられるものであります。なおまたこの沿岸漁業が非常に荒廢いたしておりました、転換せなければならぬ時期において北洋の深海魚の問題であります、これを工船式により深海魚をアイスシュミール化するといふことは、これはまたわれ／＼として当然考へなければならぬことではあります。しかしこれを真に事業化してどうかという点については、いろいろの論があるようであ

りますが、農林省としては、大きな北洋の資源を生かすために現在研究いたして供与でき、これを広く飼料として供与でき、また市場を開拓し、またえさつけ等の技術等も検討いたしまして、十分これが工業化するように推進をはかりたい、こう考えております。

○夏堀委員 御答弁はごもつとであります。これから御研究をなさることもこれは当然でありましようが、私さつきドイツの食糧問題に對して、第一次戦争に敗れたのは食糧問題であつた。そこでヒトラーがこの問題を取上げて食糧を充実したことは、歴史にあまり有名であります。日本からもいわしのフイツンエミールをたしか六万トンぐらいたつたと思ひます。そうしたこととは、當時はいわしがあつたからいひが、今はさういふわけに行かぬから、かわつて北洋問題が、日米加漁業協定によつて、大きく飛躍的に世界的な舞合に乗り出したのでありますから、これを活用することこそ大きな国策である、こう私は申し上げておるのであります。まだ研究の段階であるというこ

とは当らない。農林大臣は、先ほど申し上げましたように、鶏をたくさん飼つても、もう経費済みである。これは一つの例でありますけれども、農事試験場のどこへ行つて聞いたところで、全国の県知事級で岩手県の県知事は一番農業に明るいのであります。この方が一番この問題に重大関心を持つております。また北海道の田中長官もこの問題に非常に重大な関心を持つております。特に北海道は酪農等を盛んにしなければならぬ關係上、この間私北洋漁業のちようど出航のお祝ひのときに参つて、話がたま／＼この問題に觸

れて、重大関心を持つておる、こちらの方からも何がしか方法を考えて、政府に呼びかけたかと思ふから、適当な機会にこれを政府に強く申入れすることを願ひすると言葉まであつたのであります。あまりおつくりがらないで、たとえ百億圓に近い外貨を払わなければならぬこの飼料の問題を取上げる程度の勇敢なお考えがあれば、平野先生もこの問題と並行して、むしろこのフイツンエミールをこの飼料に混合してやることはいいだろうと私は考えております。まだ研究を要しますが、積極的にこの事業を進めるといふことによつて、先ほど申し上げましたように、五百万石の米に換算した増産ができ、そして輸入米がこれによつて調整ができるということになれば、輸入米に對する補給金の節約もできるであつて、その面から行けば、むしろ今審議してあります外國からこれを購入しなければならぬというそれと比較検討して、私はこちらの方が有利である、こう断言せざるを得ないのであります。であるから、国内問題によつて解決をつけるに容易であり、失業問題にも役立つことであり、よつてあわせて食糧自給態勢を確立するといふことであれば、非常な大政治家である廣川農林大臣が身をもつて経

験しておるこの飼料問題に對しては、これを今提案になつておりますこの法案の中にむしろ織り込んで、これと並行してすみやかに政策としてこれを取入れていただきたい。採算の問題であります。これも外貨の問題はこれにはありません。ただも採算云々といふことであれば、ここにも二十億程度の赤字ができることを覚悟してやるこ

とであつて、結果においてどちらが効果的であるかは、研究してみなくても私は確信を持つております。先ほど申し上げましたように、病人に注射のごとく、またお薬物に對してかつおぶしのごとく、さういふようなきき目があるといふことを申し上げて、はばかないと思ふのであります。政府においてはこのような問題を取上げずに、なお研究々々——研究つこうです

が、研究に日をかりて、そして一日遅れば一日遅れるだけ國民の損になつて、さういふことは明らかになつて思ひます。平野先生の御提案になつた説明の中に盛られましたその趣旨とはほとんど同様であり、今申し上げましたような外貨の面において、一方は外國から、一方は国内生産、そして加えて失業問題、さうした面において非常に有利な政策であるといふことができらるだらうと存じます。これ以上質問の形で申し上げたところで、これはもう十分に御承知のことであり、今日では當委員会にこの法案に關連した飼料の購入という問題を、もうちよつと飛躍的にこの面を考え及ぼして、すみやかに日本の食糧自給態勢の確立のために、この御計画を立てていただくたい。また私たちがこれに對して御協力申し上げることを、強く申し入れておく次第であります。

○廣川國務大臣 該博な御抱負をお聞きいたしておるのであります。これは先ほどの言葉が少し足りなかつたかと思ひますが、フイツンエミールが飼料として十分有効であり、また使えることとは、もうこれは万人認めておるのであります。ただ北の方では鯨の血を固めたもの、あるいはまた長崎あたり

におけるいわしのフイツンエミールといつたような、ごくそまつなものまで使ひこなして、実は非常にこれは役立つておるのであります。事実それは承知いたしてあります。しかしあなた御指摘の北洋漁業の深海魚といふか、北方の深海魚を工船によつて生産するといふことについては、まだ検討中といふことなわけですが、フイツンエミールの増産については積極的な意欲をわれ／＼は持つております。ただ現在金融その他については、たゞいまも漁村における資金を設定いたさうといつたして、あるときでもあり、あるいはまた農林金庫法を設けて資金面をなるべく潤沢に行きたい。せつかく遠くまで捕鯨して帰つて来て、その油の始末に困らせるといふような状況にありまふので、さういふようなことをわれわれは積極的に解決して、この大事な資源をほんとうの飼料のルートに乗せるようにいたしたい。あなたの御指摘の点はよくわかるのであります。現在提案になつております飼料の問題は非常に急を要するので、われわれはこれに賛意を表しておるのであります。並行して積極的な意欲をもつて十分これを考えることに、決してやぶさかではございません。

○夏堀委員 そこで結論として申し上げたいのですが、金融の面においてはいへん御苦勞である。現行行政下においては私もさう考えます。ただいづれにせよ、日本の食糧の自給は絶対必要であるといふことから、総理も主となつて農林大臣も委員としてさう／＼御懇談になつておるようです。これは永久的なことで、先ほど申し上げたように

たいへんけつこうなことでありますけれども、五百億とか、あるいは財政面においてそれ以上を支出してまでも、食糧の自給をはかりたいという御決意になつておるのでありますから、政府全体として、この大きな問題は、この何分の一かをお考えになればさう大した金ではないのでありますから、あまりおつくりがらないで、勇敢にこの食糧自給の大きな政策を成功してくださるよう、あわせてお願いする次第であります。

○廣川國務大臣 食糧の自給度の確立は、日本民族として最大の目標であります。また非常に急を要する問題でございます。現在のうちに外貨を四億四、五千万ドルも食糧のために払つておるといふことは、何といたしましてこれを防ぐように努力しなければならぬのであります。現在幸いに世界はまだ軍拡時代になつておりますので、日本の生産品が多少なり売れて参るのであります。これが平常になつた場合を、各界各層とも非常に心配いたしておるのであります。はたしてこの四億四、五千万ドルの外貨を今後獲得できるかどうか。戦争中における機械の老朽化、技術の退化、さういつたようなことをつづきに検討いたしますと、鉱工業における原材料の輸入等を勘案いたしますと、非常に寒心にたえませぬので、私たちがいたしましては、食糧の自給度を総合的に考へてやつておるのであります。その食糧自給度の確立の総合の一環としてフイツンエミールを考へることは、決してやぶさかではないのであります。来る機会にあるいは補正予算を組む時期等も

ありましたならば、なおこれは考へた





おきたいと思ひます。

○平野三郎君 たいだいま畜産局長からお答えになりましたように、米価審議会において先般答申いたしましたふすまの価格が、いわゆる製粉工場の工場渡しが五百九十円ということとございしますが、これを現在製粉工場が六百五十円から六百七、八十円で売つております。農家へ行きませう場合には七百円以上とられる、こういうことでありますから、輸入補給金のついた麦の副産物であるふすまを、製粉工場の方でもうけておるので、従つてそれに対して政府が指示をすることが必要であるといふことが、この飼料需給調整法の目的でありまして、従つてどうしてもこの飼料需給調整法を通してそれで抑制する必要があるのだということが野党各派の御主張であります。この点につきましましては私どもも同意であります。しかしながら今回この食糧特別会計法の改正案を御賛成願つて、そうして輸入量が増加して絶対量がふえれば、自然に現在のやみ価格が五百九十円の近くまで下つて来るのではないかと、そうすれば飼料需給調整法というものは必要がないといふことになるわけでございます。しかしながらこの処置をとりましても、依然として飼料価格が下らないという場合においては、確かに飼料需給調整法の必要も認めなければならぬと思ひますけれども、まずできるだけそつた無用の統制は避ける方が国民の望むところである、こういう見地からこの法案を出しておるわけでありまして、もしこの措置をとつてもなお効果の上らないという場合におきましては、あなたの御議論も成り立つのではないかと思ひますが、当面とい

しましては、ぜひこの法案に御賛成をいたされたいと、重ねてお願いを申し上げるわけでございます。

○松屋委員 私どもは食糧問題も十分になつてゐるとは考へておられないので、まだ米も統制しなければならぬし、麦の問題もなか／＼むずかしいのですが、お宅さんの方では自由販売を主張しておるのですから、この点は見解の相違だと思ひます。それでなかなか結論が出ないと思つたので、もう少しお互にお話し合つてみたいと思ひます。

○佐藤委員 本日は午後一時から、未復員者給与法案の一部を改正する法律案に関する連合審査会を開会する予定でありますので、本日はこの程度にて散会いたします。次会は明二十七日午後一時より開会いたします。  
午後零時三十九分散会